

Arcserveの統合型バックアップ／リカバリソリューション

Arcserve® Unified Data Protection

仮想・物理を問わず
システムを丸ごと
バックアップしたい方へ

手間をかけずに
仮想化共通基盤を
バックアップしたい



低コストで
災害対策を実施したい



専門知識がなくても
簡単に使える
イメージバックアップソフトを
探している



解決策はこちら

単一サーバから複雑な環境まで、バックアップ

Arcserve Unified Data Protection (UDP) は、スタンドアロンのサーバはもちろん、物理環境、仮想環境、もシステム全体をシンプルに管理し、バックアップ／リカバリできます。

単一サーバのバックアップ



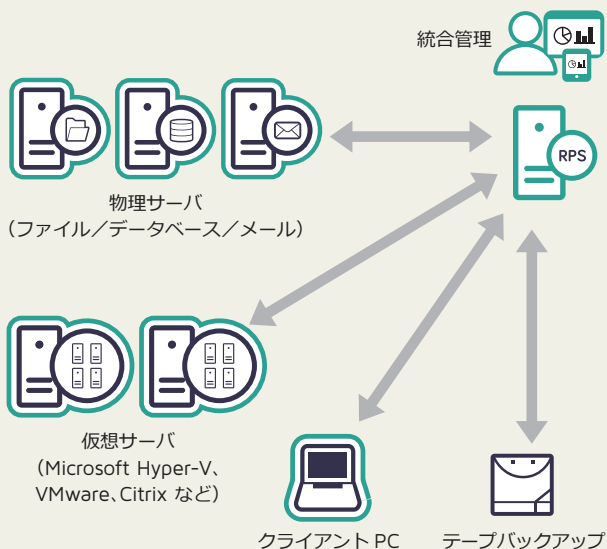
サーバの OS、アプリケーション、データを「丸ごとバックアップ」し、「丸ごと戻す」ことができます。専門知識の無いユーザでも、サーバ1台の小規模環境からバックアップ／リカバリできる簡単さと運用負荷を軽減する高度な機能を標準で備えています。バックアップ対象は、Windows だけでなく、Linux にも対応しています。

- 簡易な操作性
- わずか10分の簡単インストール
- 異なるサーバへの丸ごと復旧(ベアメタル復旧)
- SQL Server、Exchange Server のオンラインバックアップ
- フォルダ／ファイル単位、データベース単位復旧
- エクスプローラからのリストア

P.4 誰でも手軽に簡単に



複数サーバの統合バックアップ



企業内の物理サーバ、仮想サーバ、クライアント PC など複雑化するシステム環境のバックアップ／リカバリ運用を統合して行うことができます。対象が多くても統合コンソールから同一の操作性で全てを管理することで、IT 管理者の運用負荷を大幅に削減します。

- 物理／仮想サーバの混在環境を一元管理
- 各種アプリケーションサーバのオンラインバックアップ
- 仮想マシンのエージェントレス・バックアップ
- 仮想マシン単位、ファイル単位リストア
- テープへのアーカイブ

P.4 仮想化基盤の運用をシンプルに



コンポーネント

要件に併せて3つのコンポーネントを柔軟に配置できます。



エージェント

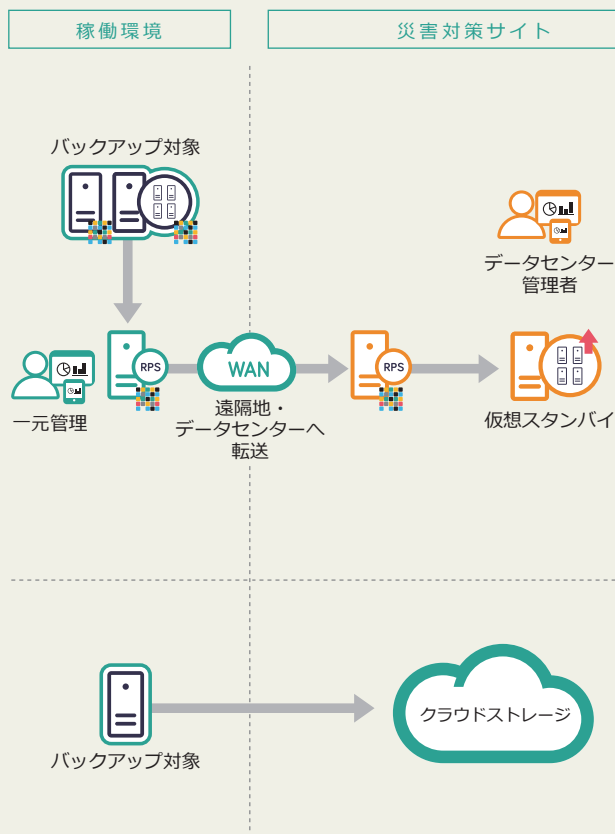
バックアップ対象サーバに導入します。エージェント単体でバックアップの運用管理を行います。

をもっと「手軽」に「シンプル」に。



クラウドといった複雑な環境であって

災害対策サイト/データセンターへのバックアップ/スタンバイ



災害発生時にも企業は業務を止めることができません。Arcserve UDPは、バックアップデータを遠隔地に転送したり、バックアップデータから仮想マシンを自動生成（スタンバイ）させ、リストアするよりも速い業務再開を実現する機能などを標準で搭載しています。

標準機能

- バックアップデータの重複排除
- バックアップデータの転送
- 仮想スタンバイサーバの自動生成
- マルチテナントストレージ機能

Premium/Premium Plus エディション

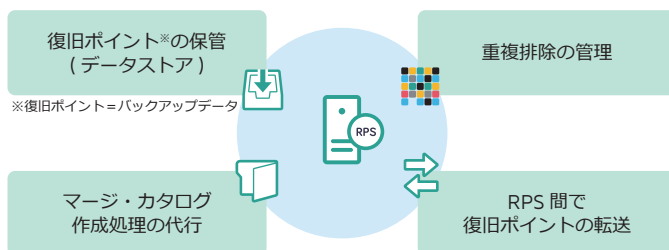
- ファイル単位のレプリケーション
- アプリケーションデータの自動複製

P.4 業務継続・災害対策の対応 >>

P.6 クラウド対応 >>

バックアップを効率化する 復旧ポイントサーバ (RPS)

復旧ポイントサーバを導入することで保護対象が多い環境のバックアップ/リカバリを効率的に行えます。



復旧ポイントサーバ(RPS)

バックアップデータの格納庫として重複排除や遠隔転送などを行います。

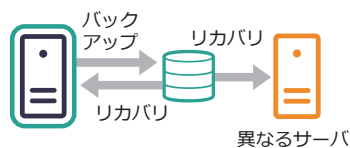


統合管理コンソール(サーバ)

複数台の保護対象(サーバ/クライアントPC)のバックアップ/リカバリを統合管理するためのコンポーネントです。

誰でも
手軽に、簡単に

丸ごととって、丸ごと戻す



OS、アプリケーション、データとシステム全体を簡単に「丸ごととって」、「丸ごと元に戻す」ことが可能です。専門的な知識や特別な設定は一切必要ありません。

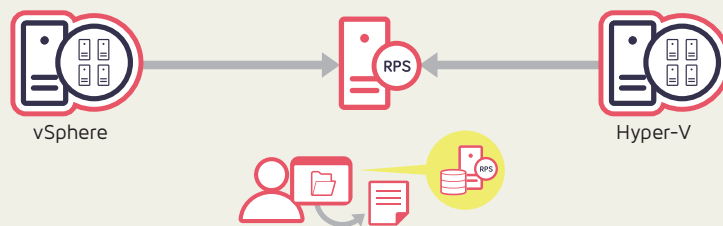
消してしまったファイルも エクスプローラから簡単にリストア



ファイル・フォルダ単位でリストアする機能も備えています。慣れ親しんだエクスプローラ画面で、ドラッグ&ドロップするだけで誰でもデータを簡単に戻せます。

仮想化基盤の
運用をシンプルに

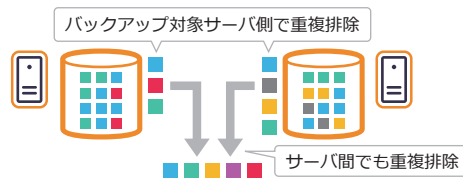
仮想化基盤側で設定が完了 エージェントレス・バックアップ



VMware vSphere環境でも、Microsoft Hyper-V環境でも、仮想マシンにエージェントを導入することなくバックアップが行えます。エージェントレスでありながら、継続的な増分バックアップや仮想マシンの中にあるファイルやフォルダをリストアすることができます。

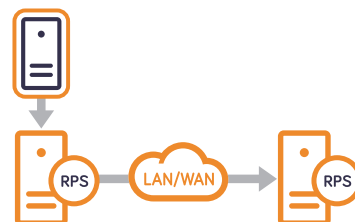
業務継続
災害対策

バックアップデータの 重複排除



バックアップ対象サーバ(エージェント)側で重複を排除してバックアップします。またエージェント間でも重複が排除されます。少ないデータ容量でバックアップデータを保存できます。

バックアップデータの 遠隔転送



Arcserve UDPには、標準でバックアップデータの転送機能が備わっています。特別なコンポーネントは不要で、大切なデータを遠隔保管できます。

コンポーネント

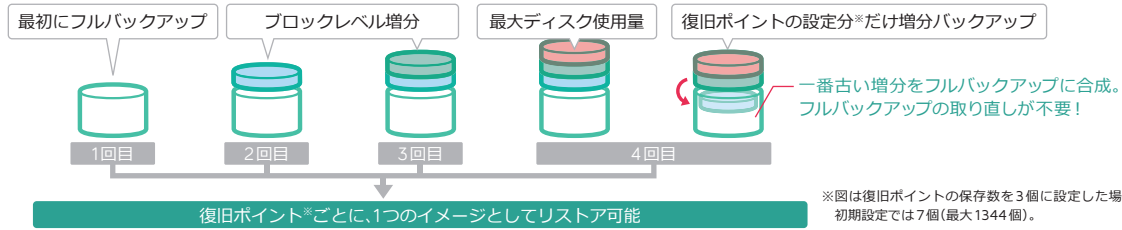
要件に併せて3つのコンポーネントを柔軟に配置できます。



エージェント

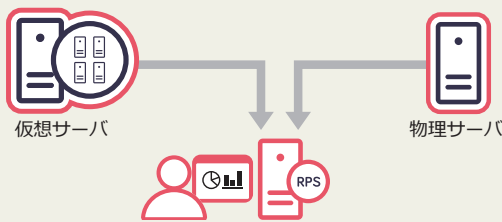
バックアップ対象サーバに導入します。エージェント単体でバックアップの運用管理を行います。

フルバックアップは初回のみ 継続的な増分バックアップ



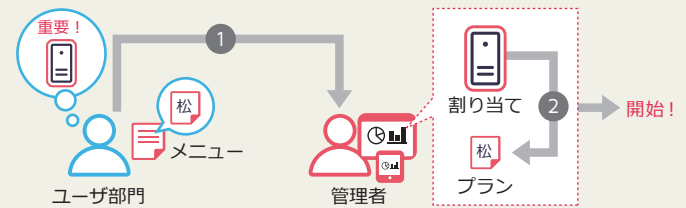
初回のフルバックアップ以降は、ディスクの変更ブロックのみを増分バックアップし続けることでバックアップデータを小さく保管し、短時間でバックアップを完了することができます。これを支えるのがI²テクノロジー™という技術です。設定した世代数を超えると一番古い増分バックアップとフルバックアップを自動的に合成(マージ)するので、フルバックアップの取り直しが必要ありません。

仮想も物理も統合管理



仮想環境だけでなく、物理環境ももちろん統合してバックアップできます。さらに物理サーバと仮想マシンのバックアップをすべて同じ画面で管理できる点もArcserve UDPの強みです。

バックアッププランのテンプレート化で 運用管理の負荷を軽減



バックアップ方法をあらかじめメニュー化しておくことでシステムごとに要件を定めて設計する手間がなくなります。ユーザ部門に、システムの重要性に合わせてプランを選択してもらい、あとは対象システムを選択されたプランに割り当てるだけでバックアップが開始できます。

スタンバイサーバを使って 業務を迅速に再開



本番サーバに障害が発生したときに、あらかじめスタンバイ用の仮想基盤上にリストアされていた仮想マシンを起動するだけで代替運用が可能です。スタンバイ用の仮想基盤を設定すれば災害時の継続運用も行うことができます。

テープへのアーカイブ



バックアップデータをテープにアーカイブすることが可能です。これにより、オフサイト保管や監査要件にも対応できます。



復旧ポイントサーバ(RPS)

バックアップデータの格納庫として重複排除や遠隔転送などを行います。



統合管理コンソール(サーバ)

複数台の保護対象(サーバ/クライアントPC)のバックアップ/リカバリを統合管理するためのコンポーネントです。

クラウド対応

クラウドへのファイルコピー

バックアップデータから指定したファイルデータをクラウドストレージへ保管できます。Amazon Web Services やMicrosoft Azureをはじめとして国内の主要クラウドサービスに対応しています。



クラウド上の仮想インスタンスをバックアップ

Amazon EC2上の仮想インスタンスにエージェントを導入してバックアップすることができます。またバックアップデータの転送先として利用できます。



分かりやすい インターフェイス

IT管理者の運用負荷を軽減



初心者でも分かりやすいと好評いただいていたArcserve D2Dを踏襲し、だれでも使える管理画面になっています。さらに、仮想/物理、Windows/Linuxを同じ画面で管理できる統合管理コンソールやレポートで大規模環境のIT管理者も強気にサポートします。いずれの画面もWEBインターフェイスなので、操作する場所を選ばないこともポイントです。

その他

Arcserve Replication / High Availabilityの統合管理

Arcserve Replication / HAの持つレプリケーションおよびスイッチオーバーをArcserve UDPで管理できます。

柔軟なスケジュール設定

日次・週次・月次での設定はもちろん、指定曜日の除外といったバックアップスケジュールの柔軟な設定が可能です。

バックアップデータの暗号化

AES256 / 196 / 128ビットでバックアップデータを暗号化できます。これによりデータを安全に保管します。

マージ・カタログ作成のオフロード

マージ処理やカタログ作成など、時間のかかる処理はバックアップサーバ側で処理します。本番サーバの処理は、バックアップ時間のみにすることで、パフォーマンスへの影響を最小限に抑えます。

> Arcserve UDPのエディション

Arcserve UDPには、5つのエディションが用意されています。Arcserve UDPの基本機能はもちろん、Arcserveシリーズの全機能を利用できるものまで用意されています。

エディション

S Standard Edition

- 物理または仮想環境で構築される Windows/Linux サーバのシステムおよびデータのバックアップ/リカバリ
- バックアップ タスクの統合管理およびバックアップデータの集約先(データストア)の提供
- ソース側での重複排除バックアップ
- バックアップ データ(復旧ポイント)の遠隔転送
- テープへのアーカイブ(D to D to T)
- サーバの自動作成(仮想スタンバイ)

A Advanced Edition

このライセンスは Standard Edition に加えて、以下の機能が含まれています。

- Microsoft SQL Server および Microsoft Exchange Server のオンライン バックアップおよびデータベース単位での復旧
- Microsoft Exchange Server のメール単位の復旧

P Premium Edition

このライセンスは Advanced Edition に加えて、以下の機能が含まれています。

- Arcserve Backup の全機能、エージェントおよびオプションの利用
- Arcserve Replicationのファイルサーバ レプリケーション シナリオの利用(ファイル ベースのリアルタイム レプリケーション)

PP Premium Plus Edition

このライセンスは Premium Edition に加えて、以下の機能が含まれています。

- Arcserve Replication および Arcserve High Availability の全機能およびシナリオの利用

W Workstation Edition

このライセンスはWindows クライアントPCに最適化したもので、以下の機能が含まれています。

- データおよびシステムのバックアップ
- 統合管理およびデータストアの提供
- データストア(RPS)のテープバックアップ
- 遠隔地へのバックアップデータの転送

バックアップ要件

バックアップ要件	エディション	サーバ用エディション				クライアントPC用エディション
		Standard	Advanced	Premium	Premium Plus	Workstation
仮想/物理データおよびシステムのバックアップ/リカバリ		✓	✓	✓	✓	✓
統合管理およびデータストアの提供		✓	✓	✓	✓	✓
バックアップ データ(復旧ポイント)の遠隔転送		✓	✓	✓	✓	✓
テープへのアーカイブ(D to D to T)		✓	✓	✓	✓	✓
仮想マシンのエージェントレスバックアップ		✓	✓	✓	✓	
アプリケーションのオンラインバックアップ(SQL, Exchange)		※2	✓	✓	✓	
Arcserve Backup の全オプション、エージェントを含む全機能※1				✓	✓	
Arcserve Replication ファイル サーバ シナリオ				✓	✓	
Arcserve Replication/HA全機能※1					✓	

※1 日本でサポートされている機能・動作要件が対象です

※2 SQL Server Express Editionのみオンライン バックアップをサポート

> ライセンスの考え方

課金の対象となるのは、バックアップ対象のみです。バックアップ対象数またはバックアップ対象サーバのソケット数でライセンスを適用します。コンソールおよび Recovery Point Server(RPS:バックアップ保存先サーバ)のライセンスは、不要です。

ライセンス対象



物理サーバ

クライアントPC

仮想サーバ

※ Arcserve Replication/High Availability 機能を利用する場合、ライセンスは複製元と複製先サーバ（物理/仮想ホスト）のソケットの合計数が必要です。

> ライセンスの種類



サーバ台数

保護対象の物理サーバの台数分で課金されるライセンス体系です。



CPUソケット数

保護対象サーバで利用されているCPUソケット数分で課金されるライセンス体系です。



データ容量

保護対象サーバの総データ容量で課金されるライセンス体系です。

> 価格

エディション	サーバ単位 (Server)		ソケット単位 (Socket)	
	1年メンテナンス付き	3年メンテナンス付き	1年メンテナンス付き	3年メンテナンス付き
Standard Edition	¥80,000	¥102,000	¥80,000	¥102,000
Advanced Edition	¥100,000	¥128,000	¥100,000	¥128,000
Premium Edition	—	—	¥200,000	¥256,000
Premium Plus Edition	—	—	¥300,000	¥385,000

エディション	容量単位 (キャパシティ) ^{※1}			
	1TB		2-5TB	
	1年メンテナンス付き	3年メンテナンス付き	1年メンテナンス付き	3年メンテナンス付き
Standard Edition	¥492,000	¥632,000	¥468,000	¥601,000
Advanced Edition	¥615,000	¥789,000	¥585,000	¥750,000
Premium Edition	¥1,024,000	¥1,314,000	¥973,000	¥1,249,000
Premium Plus Edition	¥1,797,000	¥2,306,000	¥1,708,000	¥2,191,000

クライアントPC用製品	1年メンテナンス付き	3年メンテナンス付き
Workstation Edition - 5ライセンスパック	¥40,000	¥51,000

メディアキット ^{※2}	
License Program Arcserve Media Kit	¥5,000

※1 キャパシティライセンスは、バックアップ(または複製)対象の総データ量に対して課金されるライセンスです。本価格は、1TB(テラバイト)に対するライセンス金額です。6TB以上ご利用のお客様は販売店または Arcserve ジャパン・ダイレクトまでお問い合わせください。

※2 ライセンスプログラムで購入した製品をインストールするためのメディアです。ライセンスプログラムを初めてご購入いただく際はメディアキットをご購入いただくか、モジュールを Web からダウンロードしてご利用ください。

> トライアル <http://www.arcserve.com/jp/software-trials>

> 無償セミナー <http://www.arcserve.com/jp/lpg/seminar>

> サポート情報 <http://www.arcserve.com/jp/lpg/jpsupport/csp>

arcserve®

すべての製品名、サービス名、会社名およびロゴは、各社の商標、または登録商標です。製品の仕様・性能は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。
Copyright © 2014 Arcserve (USA), LLC. All rights reserved.

Arcserve Japan

お問い合わせ
Arcserve ジャパン・ダイレクト (0120-702-600)
JapanDirect@arcserve.com

WEB サイト : www.arcserve.com/jp

※記載事項は変更になる場合がございます。 2014年10月現在